

平和のため後世に語り継ぐ戦争体験

昭和十八年六月、戦時下の政府は、「学徒戦時動員体制確立要綱」を閣議決定し、十九年四月「学徒勤労動員実施要領」を通達し、産業労働力の供給源と学生生徒を位置付け、国防施設、食糧増産、緊急物資増産、輸送力増強の重点四事業に勤労働員として中学校三年以上の学徒を各部門に送り込みました。

十九年八月には、「女子挺身勤労令」を交付し、女子挺身勤労隊を編成して、軍需工場や食糧増産に動員しました。

県内では、十九年九月あるい或は、二十年一月に第五、第七高校、熊本工専、東洋語専を始め、多くの中学校が「お国のため」「滅死報国」の標語のもとに三菱健軍工場や上熊本工場、熊本航空機、田迎航空機、また山鹿、来民の域北航空機等に約四四〇〇名が、ハンマーの打ち方、ヤスリのかけ方等の訓練を受け各工場に配置され、職工員の指導の下に、慣れない作業に従事しました。

当時、男子は戦闘帽にゲートルを巻き、胸には学校名と名前血液型の名札をつけ、救急袋と防空頭巾を肩に掛け、女子は筒袖のモンペ姿に日の丸や必勝或は、神風の鉢巻きも凛々しく、時には先生や、陸軍将校の監督官から叱られながら、極度の疲労と空腹に堪え、ただ一途に国のため、郷土のため、そして家族を守るためと日夜の重労働に従事して居ました。

大日本帝国の必勝を信じていた私には晴天霹靂せいてんへきれきの八月十五日の終戦を迎え、三日後の八月十八日総組立工場で最後となった四十六号機に日の丸の旗をかけ、全員集合して、陸軍四式重爆撃機で史上の傑作機と称賛された「飛龍」に涙ながらの別れを告げました。工具、部品等を整頓し、重要な図書は一部焼却されました。

回顧するに、御国おくにのためと一途に若き日を過ごした今も残る自衛隊の最北端にある当時の組立工場の鋸のこぎり型の屋根には忘れ難いものがあります。

平成七年五月、健軍自衛隊とサンパレス会館で、健軍三菱動員五〇年

の会を、約四五〇名参集し、師団長や県知事ご来席の下に開催しました。
戦争の虚しさ、惨めさと、青春を軍需生産に捧げた思い出を語り合い、
又平和な日本が永久ならん事を誓い合い終わりました。

熊本市中央区 安武 次郎 太